

西本愛

窯焚きの夜・二十二時

千百七十五度 千百七十六度

薪窯は

燃えるのではなく 光を集める

耐火レンガの隙間から

ヒュルリ 蛇のような息をはいて

窯焚きの夜・二時

寝ずの番して 火を守り 火を落とす

そこから三日眠る窯

土と釉薬と灰

暗がりのなか かそけし声は

人には知られぬ 世界の言葉